

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開 催 年 月 日	令和5年7月24日(月)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時00分 から 13時45分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	中村 直樹
出 席 者	委員長 中村 直樹 副委員長 東谷 康生 委員 相馬 渉 委員 平野 敬之 委員 下田 肇 委員 小林 雅也 委員 三上 佳子 委員 渡部 郁子 委員 古山 伸子
欠 席 者	須藤 武行、松山 貴紀、成田 祐介、佐藤 信隆
事 務 局 職 員 の 氏 名	福祉部長 秋元 哲 介護福祉課長 齊藤 隆之 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 伴 英憲 介護福祉課総括主幹 工藤 里美 介護福祉課社会福祉主事 石岡 丞
会 議 の 議 題	(1) 令和4年度弘前市認知症初期集中支援チーム活動報告 (2) 弘前市の認知症施策の実施状況について
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料1 弘前市附属機関設置条例(一部記載省略) 資料2 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会運営規則 資料3 弘前市認知症初期集中支援推進事業実施要綱 資料4 弘前市認知症初期集中支援チーム 業務の流れ 資料5 弘前市認知症初期集中支援推進事業 実績報告書 資料6 弘前市の認知症施策の実施状況について 参考資料1 利用者基本情報 参考資料2 対象者把握チェック票 参考資料3 障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度) 参考資料4 認知症高齢者の日常生活自立度

<p>会議内容</p> <p>( 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 )</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 副市長挨拶</li> <li>4. 委員長・副委員長の選任</li> <li>5. 認知症初期集中支援チーム検討委員会の概要説明</li> <li>6. 案件</li> <li>7. 閉会</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li>   <li>2. 委嘱状交付</li>   <li>3. 副市長挨拶 挨拶終了後、副市長退席</li>   <li>4. 委員長・副委員長の選任 委員の互選により、指名推薦にて委員長は中村委員、副委員長には東谷委員が推薦され、異議なく承認された。</li>   <li>5. 認知症初期集中支援チーム検討委員会の概要説明 ・事務局：資料1～4説明、参考資料1・2 <b>【質問・意見】</b> (委員長) この認知症初期集中支援チームは、国が定めたプロジェクトチームというものがあり、対象者が危機的な状況になってから対応するのではなく、早期に発見し状況を回避するような機能を整備する必要があるということで、認知症初期集中支援チームが作られてきた経緯があったと思います。 今回出席するにあたって、今までの議事録等を読ませていただき、各地域包括支援センター職員が一生懸命動いていることが分かりました。また、認知症初期集中支援チーム自体の対応件数はそこまで多くはありませんが、対応自体非常に良いことであると私なりに読み取りました。引き続き、このチームで取り組むことに加えて、対象者の把握のため、アウトリーチも行っていく必要があるのではないかと感じました。</li>   <li>6. 案件 (1) 令和4年度弘前市認知症初期集中支援チーム活動報告 ・事務局：資料5説明、参考資料3・4 <b>【質問・意見】</b></li> </ol>

(小林委員)

2月に行われた情報交換会の中で、各地域包括支援センターから意見や抱えている課題について出たものがあるかを分かる範囲で教えていただきたい。

(事務局)

2月に行われた情報交換会の中では、12月末までに対応したものに関して事例紹介を行いました。チーム員の活動として、医療機関につなぐ等の対応が行われていたことへの驚きや感心の声が多く、各包括から抱えている課題に関する発言はあまり出ませんでした。ですが、各包括に対して、チーム員の活動の現状を改めて周知することができたと感じました。

(小林委員)

ここ2年程、私も、西部包括の職員と地域の見回りを何度か行う中で、どのようにして早期発見に繋げられるかが課題に上がっており、中々上手くいかず四苦八苦しております。このような地域の課題を一つでも拾い上げていければいいな、という思いで質問させていただきました。どうもありがとうございます。

(委員長)

ありがとうございます。これから認知症の人が増加し、夫婦での暮らしから独居生活に変わっていく時代が迫る中、小林委員のご指摘の通り、どのようにして早期発見するかが非常に重要だと思います。一方で、家族や本人が認知症であると認識していない方も多いことに加え、自ら認知症であると周りに言うことは、とても勇気が必要だと思います。

今後、様々な課題はありますが、状況が悪化する前に早期発見できる仕組みづくりを進める必要があるのではないかと思います。他にご意見いかがでしょうか？

(東谷委員)

認知症初期集中支援チームの新規件数2件というのは少なくとも見えますが、認知症初期集中支援チームの設置成果が現れた結果と考えると、この件数は少なくないと感じました。

質問ですが、2名とも世帯状況が独居となっておりますが、市内または遠方に親族がいる、あるいは、誰も親族いないという状況なのでしょうか。対応した結果を簡単に教えていただければと思います。

(事務局)

1人目については、地域包括支援センターからの相談で、

	<p>元々夫婦で過ごしていましたが、夫が亡くなり、さらに家族や親族との関係性もなく、独居で過ごされていた方でした。地域包括支援センターとしては、夫婦で過ごしている時から関わっていた方でした。結果としては、専門の医療機関へ入院となりました。</p> <p>2人目は、元々一人で過ごしていましたが、認知症が進み独居が困難になっている方です。遠方に息子はいますが、対象者に対する介護サービス利用の提案や、何か支援していただけないかとアプローチをするも、非協力的で物事が進まないためどうすればいいかということで、ケアマネージャーから認知症初期集中支援チーム員に相談がありました。</p> <p>(東谷委員)</p> <p>認知症の人は自分で認知症と言いたがらないことと同じで、その事実を認めたくない家族も多いため、初期の段階からの関わりが大事だと思います。プライバシーの観点から難しい部分ではありますが、ケアマネージャーや包括職員が、もう一歩踏み込んだ支援をしていただければと感じました。</p> <p>(2) 弘前市の認知症施策の実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局：資料6説明</li> </ul> <p><b>【質問・意見】</b></p> <p>(委員長)</p> <p>以前の議事録を拝見すると、地域の町内会や自治会、または、小・中学校や大学に出向いて認知症サポーター養成講座を開催していることが書かれていました。</p> <p>実際、家族や友人の中に認知症の人がいたことで、対応をどうすればいいのか、と初めて気付く人が多いのではないかと思います。常に認知症を意識している人は少ないと思いますので、引き続き、認知症サポーター養成講座の開催に向けて、活動していただきますようよろしくお願いします。</p> <p>7. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録については事務局で作成後、委員の皆様へ送付し、内容を確認していただき、修正等おこなった後、市のホームページへ掲載します。</li> <li>・第2回は開催日時が決まり次第連絡します。</li> </ul>
その他必要事項	